

【施策14】 魅力創造・発信

～歴史や文化を守り活かし、人を引き付ける魅力があふれるまち～

- ◆展開方向01：まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
- ◆展開方向02：尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人との交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
- ◆展開方向03：まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。
- ◆展開方向04：まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。

展開方向01	1 都市イメージ向上推進事業費	418
	2 歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業費	419
	3 特別展事業費	420
	4 古代のくらし体験学習会事業費	421
展開方向02	5 姉妹・友好都市交流関係事業費	422
	6 国際交流事業補助金	423
	7 まち情報発信事業費	424
	8 尼崎版観光地域づくり推進事業費	425
展開方向03	9 若者の夢創造・発信事業費	426
	10 尼崎市総合文化センター補助金等	427
	11 文化団体育成補助金	428
展開方向04	12 史料館紀要発行事業費	429
	13 史料等整備事業費	430
	14 城内まちづくり推進事業費	431
	15 地域資源活用型まちづくり推進事業費	432
	16 文化財保護啓発事業費	433
	17 文化財収蔵庫企画展事業費	434
	18 歴史資料保存公開事業費	435
	19 田能遺跡サポーター養成事業費	436

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	都市イメージ向上推進事業費	192Q	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—		展開方向	14-1 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成30年度	行政の取組	14-1 シビックプライドの醸成
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	60 企画費			
局	総合政策局	課	広報課	所属長名
				藤川 明美

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	尼崎市の人口減少の原因として、過去の公害をはじめ、治安やマナーの悪さを背景に「マイナスイメージ」が先行していることから、市内外の市民・事業者に対して、本市の魅力や暮らしやすさを発信している定住・転入促進情報発信サイト「尼ノ國」をさらに周知するほか、本市を総合的にPRする冊子を作成するなど、本市の魅力や特徴を生かしたシティプロモーションを展開することで、ファミリー世帯の定住・転入促進のほか、本市のイメージ向上につなげる。
事業概要	定住・転入促進情報発信サイト「尼ノ國」の運営、PR冊子の作成、ロゴマークの作成
実施内容	<p>1 尼ノ國サイト運営及び参画推進キャンペーンの実施 ごきげんさんに暮らす「尼ノ民」として、日頃からまちの魅力を発信・発信している人や、「尼ノ学び」で学校での魅力的な授業などを紹介した。(平成30年度記事投稿数:29件) また、チラシの配布や、外部講師を招いたインスタグラム講座を通じて、「尼ノ國」をさらに多くの人に周知した。</p> <p>2 ひと咲き まち咲き あまがさき PR冊子作成 本市の魅力を市内外に向けて分かりやすく伝えるツールとして、尼崎の歴史や現代に続く文化などの魅力をまとめたPR冊子を作成した。(冊子発行部数:60,000部)</p> <p>3 「ひと咲き まち咲き あまがさき」のロゴマーク作成 ロゴマーク作成にあたって、応募や投票に市内外の多くの人が関わったほか、市内外に向けて封筒やイベントチラシ、名刺などでの活用を周知し実践してもらうことで、まちへの愛着と誇りをさらに高めるきっかけとなった。</p>

②事業成果の点検

目標指標	尼ノ國サイトのページビュー数(月平均)(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)						単位	回		
目標・実績	目標値	14,500	達成年度	令和4年度	28年度	—	29年度	11,336	30年度	11,904
事業成果 (達成状況等)	<p>・「尼ノ國」サイトは、本市の暮らしやすさと居住地としての魅力、教育の取組などを、画像や映像を多用することでわかりやすくまとめたサイトになっており、委託の範囲である年間15コンテンツの投稿以外でも、職員が取材し、記事を投稿することで更新頻度を増やし、サイトへのアクセス数も増加傾向にある。</p> <p>・また、画像や映像については、サイト以外でも本市をPRする材料として活用できることから、各メディアにも取り上げられ、サイト内の映像を提供することで、テレビなどを通じて多くの人に本市の魅力を届けることができた。</p> <p>・今後もサイトをより多くの人知ってもらうため、まちの身近な活動や多くの共感を呼ぶコンテンツの工夫をするほか、Facebook、TwitterなどのSNSを効果的に活用し、同サイトへ誘導していく。</p>									

③事業費

(単位:千円)

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	0	4,323	4,012	
需用費		1,226	764	印刷製本費等
役務費		3		手数料
委託料		2,941	3,032	尼ノ國サイト委託料等
報償費		153	216	研修講師謝礼等
人件費 B	0	4,439	1,723	
職員人工数		0.56	0.22	
職員人件費		4,439	1,723	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	0	8,762	5,735	平成29年度までの「定住・転入促進情報発信サイト事業費」を名称変更
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源		8,762	5,735	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業費	BZ33	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	-		展開方向	14-1 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成26年度	行政の取組	14-1 シビックプライドの醸成
会計	01 一般会計		局	教育委員会事務局
款	50 教育費		課	歴博・文化財担当
項	35 社会教育費		所属長名	楞野 一裕
目	05 社会教育総務費			

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	まちづくりの核となる歴史遺産を活かし、市民との協働のまちづくりを展開し、情報発信することで、市民の地域への愛着を醸成し、尼崎の魅力を高める。
事業概要	戦国時代の城館の土塁が現存する富松城跡の保存・活用を市民との協働で進めるとともに、地域学習の素材として積極的に活用していくための取組を進め、歴史遺産の保存・活用に向けた市民の気運を盛り上げていく。
実施内容	○歴史ウォーク「富松城から尼崎城まで」の開催 ・日 時 平成30年9月22日(土) 午後1時～4時30分 ・内 容 富松城跡から市内の史跡を回りながら尼崎城天守工事現場を経て文化財収蔵庫まで歩く ・参加者 69人

②事業成果の点検

目標指標	事業の参加者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)						単位	人		
目標・実績	目標値	100	達成年度	令和元年度	28年度	101	29年度	208	30年度	69
事業成果 (達成状況等)	<p>・富松城跡を活かすまちづくり委員会との協働で取り組んだ事業は、ウォークイベントであったため、前年度のシンポジウムよりも参加者数は減少したが、市内外から69名の参加があり富松城跡の歴史的、文化的な価値を伝え、地域資産としての活用方策について、地域住民をはじめ広く市民とともに考えるという所期の目的を達成することができた。</p> <p>・富松城跡を素材とした歴史遺産の保存・活用の取り組み事例を、市内に所在する他の歴史遺産にも活用していくことができるよう取り組んでいく必要がある。</p>									

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	126	120	58	
報償費	18		18	講師等謝礼
需用費	108	120	40	事業用消耗品
人件費 B	1,352	2,407	1,950	
職員人工数	0.17	0.34	0.32	
職員人件費	1,352	2,407	1,950	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	1,478	2,527	2,008	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	1,478	2,527	2,008	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	特別展事業費	C21A	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	-		展開方向	14-1 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和46年度	行政の取組	14-1 シビックプライドの醸成
会計	01 一般会計		局	教育委員会事務局
款	50 教育費		課	歴博・文化財担当
項	35 社会教育費		所属長名	楞野 一裕
目	20 資料館費			

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	国史跡に指定されている田能遺跡にみられる弥生文化と他地域との関連・波及状況、弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展などを紹介し、弥生文化の重要性について周知を図ることにより、文化財及び郷土文化に対する市民の関心を高める。
事業概要	田能資料館の展示・学習室を会場に田能遺跡や弥生文化などにちなんだテーマの特別展や企画展を開催する。
実施内容	○特別展 ・第48回特別展「腕輪モノがたり」(会期:平成30年10月16日～12月16日) 観覧者数4,683人 関連事業…展示解説会と「貝輪をつけてみよう」(3回) 参加者数32人 ○企画展 ・前期企画展「弥生時代のくらし」(会期:平成30年5月2日～9月2日) 観覧者数14,068人 関連事業…展示解説と「弥生時代の土器をさわってみよう」(3回) 参加者数32人 ・後期企画展「田能遺跡人骨レポート Part1-第2・7号人骨を中心に-」(会期:平成31年2月5日～4月15日) 観覧者数…4,533人(平成30年度分) 関連事業…展示解説(2回) 参加者数20人

②事業成果の点検

目標指標	1日あたりの事業参加者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)						単位	人		
目標・実績	目標値	140	達成年度	令和元年度	28年度	160	29年度	130	30年度	113
事業成果 (達成状況等)	<p>・特別展の会期中の週末に天候不順な日が多かったことなどにより、結果として年間の特別展・企画展開催中の1日あたりの事業参加者数は前年度より減少となったが、市内に所在する数少ない国指定史跡である田能遺跡の魅力や重要性等についてより深く理解してもらう機会の提供につながった。</p> <p>・文化財や郷土文化に対する市民の関心を高めるという所期の目的を概ね達成することができた。</p> <p>・事業参加者数が減少傾向にあることから、より一層魅力ある内容の特別展・企画展を開催することができるよう体制を整え、取り組んでいく必要がある。</p>									

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	669	673	870	
需用費	171	173	217	ポスター印刷等
委託料	498	496	650	展示資料運搬別品業務
役務費		4	3	保険料
人件費 B	3,104	5,399	5,082	
職員人工数	0.05	0.24	0.20	
職員人件費	398	1,902	1,566	
嘱託等人件費	2,706	3,497	3,516	
合計 C(A+B)	3,773	6,072	5,952	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	3,773	6,072	5,952	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	古代のくらし体験学習会事業費	C21K	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和45年度	展開方向	14-1 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
会計	01 一般会計			
款	50 教育費			
項	35 社会教育費			
目	20 資料館費			
局	教育委員会事務局	課 歴博・文化財担当	所属長名	梶野 一裕

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	弥生文化をより身近なものとして理解するため、古代のくらしを体験できる学習会を展開して弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を新たに、市民の歴史学習を支援するとともに、文化財に対する関心を高める。
事業概要	田能資料館展示学習室を会場に、勾玉づくりや石の鋳づくりなどを体験する学習会を開催する。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィークに田能資料館へ行こう！弥生のムウでわくわく体験 開催日：5月5日・6日 参加者：37人 ・勾玉をつくろう 開催日：7月29日、8月4日、3月3日 参加者：62人 ・石の鋳をつくってとばそう！ 開催日：8月18日 参加者：19人 ・銅鏡をつくろう 開催日：10月28日、11月25日 参加者数35人 ・弥生土器をつくろう 開催日：1月20日、2月17日 参加者数45人

②事業成果の点検

目標指標	事業参加者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)				単位	人				
目標・実績	目標値	300	達成年度	令和元年度	28年度	333	29年度	287	30年度	198
事業成果 (達成状況等)	<p>・事業の実施数の見直しを行ったことから、事業参加者の総数は前年度より減少しているが、弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を新たに、市民の歴史学習を支援するとともに、文化財に対する関心を高めるという所期の目的は概ね達成できたものと考えている。</p> <p>・田能資料館が開館以来、取り組んでいる弥生時代の遺跡の現地で当時の人々の生活文化を体感することができる貴重な学習会であり、今後とも継続的に実施していくことができるよう、体制を整える必要がある。</p>									

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	99	100	132	
報償費	72	72	95	講師謝礼
需用費	24	25	24	事業用消耗品
旅費	3	3	13	講師交通費
人件費 B	1,835	3,295	2,287	
職員人工数	0.03	0.15	0.09	
職員人件費	239	1,189	705	
嘱託等人件費	1,596	2,106	1,582	
合計 C(A+B)	1,934	3,395	2,419	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	1,934	3,395	2,419	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	姉妹・友好都市交流関係事業費	102F	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和34年度	展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組めます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	05 一般管理費			
局	総合政策局	課 文化振興担当	所属長名	松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	姉妹・友好都市から訪問団の受け入れと本市からの訪問団の派遣を通じ、提携趣旨である文化・産業等の交流を図ることで、姉妹・友好都市の市民間の相互理解と親善を深め友好を促進する。
事業概要	アウクスブルク市及び鞍山市との訪問団の相互派遣及び各種交流事業を実施する
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 尼崎市青年使節団アウクスブルク市派遣事業 1,514千円 姉妹都市アウクスブルク市に尼崎市青年使節団を派遣し両市の友好交流を深める。 平成30年9月10日(月)～平成30年9月18日(火) 表敬訪問、市内視察、ホームステイ等 2 鞍山市小学生書画交流事業 25千円 友好都市と書画交流により、友好交流を深める。 ①あまがさきキューズモール：平成31年2月9日(土)～2月18日(月) ②中館2階秘書課前：平成31年3月5日(火)～20日(水) 3 鞍山市小学生使節団受入事業 237千円 平成25年度の友好都市提携30周年を機に、小学生使節団の相互派遣を行い友好を深める。 平成30年6月7日(木)～6月10日(日) 表敬訪問、小学校での交流活動、市内視察等(交流人数345人)

②事業成果の点検

目標指標	両市の派遣・受入に関わる人数や書画交流など事業に関わった人数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)				単位	人				
目標・実績	目標値	1,600	達成年度	令和元年度	28年度	1,611	29年度	1,100	30年度	1,483
事業成果 (達成状況等)	<p>【アウクスブルク市】</p> <p>・尼崎市青年使節団は、本市の代表としてアウクスブルク市長を表敬訪問するほか、ディーゼル記念石庭苑やイノベーションパーク、ユネスコ世界遺産に申請中の水に関する施設、小学校・大学を視察し、滞在中はホームステイを経験することにより、異文化への理解を深めるとともに見聞を広げ、様々な市民との交流を行った。</p> <p>【鞍山市】</p> <p>・小学生書画交流事業では、あまがさきキューズモールを会場にしたほか、巡回展示を行い交流人数の拡大を図った。</p> <p>・鞍山市との交流事業について、対象者を小学生に限定せず新たな分野の交流も検討していくなど新規の方策を検討していく必要がある。</p>									

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	1,301	1,776	8,787	平成30年度より中事業「姉妹都市アウクスブルク市交流関係事業費」
報償費	200	114	1,390	と、中事業「友好都市鞍山市交流関係事業費」を統合
旅費	193	536	2,663	
需用費	556	122	1,737	
貸借金補助及び交付金	174	920	1,844	
その他	178	84	1,153	使用料及び賃借料、役務費等
人件費 B	1,024	1,686	3,708	
職員人工数		0.08	0.24	
職員人件費		634	1,880	
嘱託等人件費	1,024	1,052	1,828	
合計 C(A+B)	2,325	3,462	12,495	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	2,325	3,462	12,495	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	国際交流事業補助金	102J	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—		展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度 昭和56年度	行政の取組	14-2 観光地域づくりと市内外の交流促進
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	05 一般管理費			
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名 松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	市民レベルの国際親善や相互理解の促進を目的として、市民の国際交流を促進する事業や、姉妹都市・友好都市との交流を促進する事業、日本語講座などに対して補助金を交付し、市民主体の国際交流を促す。
事業概要	市民レベルの国際親善や相互理解の促進を目的とした国際交流事業に対し、補助を行う。
実施内容	<p>姉妹都市・友好都市その他諸外国の市民や団体及び在住の外国人市民との交流を行っている尼崎市国際交流協会に対して、事業補助を行った。</p> <p>1 国際交流促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語講座(受講生26人) 国際交流イベント(①市民まつり、②第1回AIABAL(参加者38人)、③第2回AIABAL(参加者16人)) *AIABAL:食事をしながら、日本に住む外国人の話を聞き、地域のコミュニケーションを図る場 日本語ボランティア講師養成講座(参加者計22人) 市内在住外国人との交流事業(参加者計126人(内外国人66人)) (①)浴衣を着て盆踊り、②抹茶を立ててみませんか、③交通機関を使って昔にふれてみませんか) 日本語スピーチコンテスト(出場者14人、聴講者72人) <p>2 情報発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの運営:概ね2週間毎に更新、ホームページ閲覧者11.2人/日、閲覧ページ数55.3ページ/日 情報誌作成:年3回各500部発行、会員及び公的施設に配布

②事業成果の点検

目標指標	国際交流協会主催の交流イベントや諸外国との交流等の内、補助対象事業に関わる人数の合計(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)						単位	人		
目標・実績	目標値	400	達成年度	毎年度	28年度	468	29年度	358	30年度	298
事業成果 (達成状況等)	<p>・実績数の主な減少は、国際交流イベントの参加者数の減少によるものであるが、平成30年度は、AIABALを実施し、より緊密で深い交流を図る事業を実施した。国際交流イベントについて、より交流が図られ、多くの人に興味を持ってもらえるような事業の実施を主催者である国際交流協会と協議していくこととする。</p> <p>・また、ダイバーシティの観点や近年の多文化共生の流れのなかで、今後需要がますます増えると思われる日本語講座の参加者数を、目標値の中に追加していくなど、目標そのものについても見直すことを検討する。</p>									

③事業費

(単位:千円)

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	524	591	591	
補助金補助及び交付金	524	591	591	
人件費 B	68	149	148	
職員人工数		0.01	0.01	
職員人件費		79	78	
嘱託等人件費	68	70	70	
合計 C(A+B)	592	740	739	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	592	740	739	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	まち情報発信事業費	1932	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—		展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成21年度	行政の取組	14-2 観光地域づくりと市内外の交流促進
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	60 企画費			
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名 松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	本市が持つ歴史や伝統、文化や産業などのまちの魅力を増進し、市民や来訪者に対しホスピタリティを持って戦略的・効果的に発信する。市民がわがまちに対して愛着と誇りを持ち、事業者や各種団体が、自主的に観光振興や交流人口拡大に向けた取組を行い、ホスピタリティあふれるまちとなるとともに、交流人口、活動人口、子育てファミリー世帯を中心とした人口(定住人口)が増加している状態を目指す。
事業概要	観光・集客事業により魅力を増進し、ホームページやSNSツールにより魅力を戦略的・効果的に発信する。
実施内容	<p>1 あまらぶインフォメーション事業</p> <p>9月24日までJR尼崎駅構内のあまがさき・魅力案内所「あまらぶPlus」で観光相談・案内や情報発信を行い、来所者5874人、電話・FAX・メールを含む利用者計337人。平成30年12月から翌年3月までは、無人の案内所として運営した。</p> <p>2 Webコンテンツ、パンフレットラックの運営</p> <p>尼崎観光交流サイト「あまらぶ」、Twitterによる情報発信、市内駅・ホテル等に設置したパンフレットラックの運営を行った。</p> <p>3 観光・集客事業</p> <p>あまらぶ体験隊の応募受付等補助業務、あまらぶアートラボにおける展覧会・イベント等補助業務。</p> <p>あまらぶ体験隊第22弾、第24弾～第29弾(第25弾は台風の為中止)(計6回、計76名(市内41名、市外35名))</p> <p>第22弾「フラクウジ#1城内・大物(前年度中止分の再実施)」</p> <p>第24弾「写真家と行く工場夜景」</p> <p>第25弾「電車の舞台裏を探ろう! 阪神車両基地見学(台風の影響により中止)」</p> <p>第26弾「昼と夜の工場撮影ツアー」</p> <p>第27弾「昼と夜の工場撮影ツアー 2nd round」</p> <p>第28弾「フラクウジ#3 出屋敷・寺町」</p> <p>第29弾「城下町レトロ甘味&お城クッキー～お店を巡り、クッキーをデコレーション～」</p>

②事業成果の点検

目標指標	あまらぶ体験隊参加者の満足度						単位	%		
目標・実績	目標値	100	達成年度	令和4年度	28年度	—	29年度	—	30年度	91
事業成果 (達成状況等)	<p>・あまらぶ探検隊については、工場夜景撮影ツアーの人气が高く、市外からの参加者が増加した。参加者のアンケート結果が得られた23人のうち、16人が大変満足、5人が満足となっており、91.3パーセントが満足以上の高い満足度を示している。</p> <p>・Webコンテンツ、パンフレットラックの運営については、パンフレットラックに空き状況が見られ、随時補充を行うことで、市民や来訪者が確実に情報を得ることができる環境を整備することが必要である。</p>									

③事業費

(単位:千円)

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	17,825	10,459	3,794	
需用費	57	684	2,100	令和元年度より「まちの魅力発信事業費」に名称変更
委託料	16,862	8,073		
報償費	68	880	1,300	
使用料及び賃借料	449	453	240	
その他	389	369	154	工事請負費、負担金等
人件費 B	3,977	4,439	3,211	
職員人工数	0.50	0.56	0.41	
職員人件費	3,977	4,439	3,211	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	21,802	14,898	7,005	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	21,802	14,898	7,005	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	尼崎版観光地域づくり推進事業費	191N	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成30年度	展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	60 企画費			
局	経済環境局	課	経済活性化課	所属長名 西川 欣伸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	本市のイメージを一新する歴史・文化を取り込んだ観光施策を中心市街地である阪神尼崎駅周辺地区を中心に展開するとともに、地域資源を活かした観光振興を進め、交流人口の増加や経済活性化、シビックプライドの醸成につなげる。
事業概要	地域資源を生かした観光振興を地域一体で進め、地域の稼ぐ力やまちの魅力と価値の向上、シビックプライドの醸成を図るため、関係者等と連携しながら、マーケティングやプロモーションなど観光地域づくりの取組を推進する。
実施内容	<p>1 尼崎版観光地域づくり推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尼崎城を含む城内地区、寺町、中央・三和商店街といった「重点取組地域における尼崎版観光地域づくり戦略」及び事業計画を策定した。また、開明庁舎の活用に係る勉強会を3回実施し、重点取組地域の面的な取組の検討を進めてきた。 ・観光案内機能の強化として、観光WEBサイトの開設や、観光パンフレット・周遊促進MAPを作成した。また、尼崎観光の情報発信拠点となる、あまがさき観光案内所を設置し、観光客が情報収集やSNS等での発信ができるようAmagasaki City Free Wi-Fiを開設した。 ・交通広告やプロモーション動画を活用したWEB広告を掲出したほか、お城EXPOへの出展や梅田、難波等においてPRイベントを実施した。 ・観光マーケティング調査によるデータの収集及び分析を行った。 <p>2 中央支所施設維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央支所の電気料・ガス料・水道料・委託料について庁舎全体の面積按分に応じた使用料を支払った。 <p>3 尼崎版DMO設立補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)あまがさき観光局の設立に際しての初期投資を行った。

②事業成果の点検

目標指標	市内の観光客入込客数	単位	万人
目標・実績	目標値 280.0	達成年度	令和4年度 28年度 240.3 29年度 228.1 30年度 242.5
事業成果 (達成状況等)	<p>・尼崎城址公園の整備及び内部の展示設置が完了し、平成31年3月29日より尼崎城址公園及び尼崎城を一般公開した。一般公開日より3日間のオープニングイベントでは、約26,000人が来場し、大盛況のイベントとなるなど、市内の観光客入込客数は前年度に比べ、約15万人増加した。</p> <p>・今後は、尼崎城を中心に増加する観光客を一時的なものとするのではなく、継続して来訪者を獲得し、地域経済を活性化していきけるような仕組みを検討・構築していくとともに、(一社)あまがさき観光局を核とした地域一体での観光地域づくりの推進に向け、関係者(観光局・指定管理者・事業者・団体・市民)との連携を強化する必要がある。</p> <p>・開明庁舎については、引き続き関係者と連携して、短期的な利活用について速やかに取り組んでいくほか、「城内まちづくり整備事業費」によるハード整備とあわせて、観光地域づくりを推進していく。</p>		

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	0	54,217	0	
報償費		20		
旅費		134		
委託料		29,515		(一社)あまがさき観光局委託料
負担金補助及び交付金		23,290		(一社)あまがさき観光局補助金等
その他		1,258		需用費、役務費、使用料及び賃借料
人件費 B	0	8,561	0	
職員人工数		1.08		令和元年度より「あまがさき観光局補助金」と「観光地域づくり推進事業費」に事業組み換え
職員人件費		8,561		
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	0	62,778	0	
○の財源内訳				
国庫・県支出金		14,250		社会資本整備総合交付金 補助率1/2
市債				
その他		176		庁舎電話料等実費弁償金
一般財源	0	48,352		

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	若者の夢創造・発信事業費	1930	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成25年度	展開方向	14-3 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。
会計	01 一般管理費			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	60 企画費			
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名 松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	「尼崎市文化ビジョン」に基づき、若者の夢とチャレンジを応援する事業を実施することで、地域文化を創造する次代の担い手を育成するとともに、まちの魅力を推進する。
事業概要	本市の魅力や地域資源を活用しながら、若い人の夢やチャレンジを応援することを目的とした事業を行う。
実施内容	<p>1 ティーンズサポートチケットPR事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者に本物の音楽や舞台などの芸術にふれる機会を提供するため、尼崎市文化振興財団等が実施する公演等を若年層が500円で鑑賞できる「ティーンズサポートチケット」のPRを行った。(応募者数67人) <p>2 尼崎落研選手権</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市には多くのお笑いタレント・落語家が在住し、地域寄席が市内各地で開催されていることから、「お笑い」「落語」も地域資源の一つであると捉え、「尼崎落研選手権」を開催。(参加大学11大学、来場者180人) <p>3 あまらぶアートラボ運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手アーティストの発表・創作の場として若い人の夢やチャレンジを応援するという取組で、展覧会やワークショップなどを開催。若手アーティストを姉妹都市アウクスブルク市との間で相互派遣し、文化交流を展開。平成30年度は、展覧会5回、ワークショップ6回、トークイベント7回、その他イベントを5回開催し2,780人が参加した。アーティストの相互派遣では、アウクスブルク市へ米子匡司氏を派遣し、現地のメディアアートイベント「Lab30」で作品を発表した。 <p>4 文化未来奨励賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術性の高い優秀な作品などを創作し、全国規模の活動を展開している本市ゆかりの若手芸術家を顕彰。平成30年度は有識者の推薦及び公募による自薦・他薦合わせ19名の応募があり、美術家の小笠原周氏を第1回の受賞者として決定した。 <p>5 公開レッスン・コンサート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界的指揮者が市内中学・高校の吹奏楽部を対象に、公開レッスンコンサートを開催。(来場者1,100人)

②事業成果の点検

目標指標	若者支援を対象にした文化芸術事業への参加者数	単位	人
目標・実績	目標値 4,950	達成年度	令和4年度 28年度 3,515 29年度 3,583 30年度 4,369
事業成果 (達成状況等)	<p>・あまらぶアートラボ運営事業について、姉妹都市であるアウクスブルク市と若手アーティストを相互に派遣し、世界へ飛躍するチャンスを提供できた。</p> <p>・あまらぶアートラボ運営事業について、すべての部屋を使う展示の実施が多く、ワークショップのイベント回数が減少した。ワークショップなどの開催について、地域の生涯学習プラザなどに出かけるなどA-Lab以外の場所でのイベントの開催を検討する。</p> <p>・文化未来奨励賞については、第1回受賞者の小笠原氏によるワークショップや作品発表の展示を第2回の募集と併せて広く周知し、多くの若者の夢とチャレンジを応援する。</p>		

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	6,508	11,667	22,619	平成29年度までの「シティプロモーション推進事業」を名称変更、
委託料	811	1,611	12,984	「平成30年度より小事業「まるっとあまがさき発行事業費」は中事業「市報
報償費	2,688	5,146	6,048	「あまがさき発行事業費」へ移管
需用費	2,807	3,576	2,352	「あまがさき発行事業費」へ移管
使用料及び賃借料	118	1,138	1,124	「あまがさき発行事業費」へ移管
その他	84	196	111	「あまがさき発行事業費」へ移管
人件費 B	17,041	25,916	13,838	
職員人工数		1.73	2.20	
職員人件費	13,760	17,439	11,435	
嘱託等人件費	3,281	8,477	2,403	
合計 C(A+B)	23,549	37,583	36,457	
○の財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他	211	1,000	1,211	教育振興基金(令和元年度は文化
一般財源	23,338	36,583	35,246	振興基金、その他雑入)

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	尼崎市総合文化センター補助金等	1F1A	施策	14 魅力創造・発信	
根拠法令	—				
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度	昭和49年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	63 文化振興費				
展開方向	14-3 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。				
行政の取組	14-3 新たな魅力づくりによる文化振興				
局	総合政策局	課	文化特命担当、文化振興担当	所属長名	伊元 俊幸、松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	優れた文化芸術に親しむ機会の提供や豊かな市民文化活動の推進を図るため、市民文化活動の拠点施設である尼崎市総合文化センターを運営する尼崎市文化振興財団に対し、ホール管理費・文化事業費等の補助金を交付することで、低廉で良質な文化芸術に触れる機会を提供し、市民が文化芸術に親しんでいる状態を目指す。
事業概要	本市文化振興の中核を担う尼崎市文化振興財団に補助金を交付し、文化の向上発展を図る。
実施内容	優れた文化芸術に親しむ機会の提供や豊かな市民文化活動の推進を図るため、以下の事業を実施。 1 運営事業費補助(財団職員人件費・ホール管理費・文化事業費(美術展、団体育成)) 財団の管理運営にかかる経費の一部を補助することにより、継続的・安定的な経営を図る。 2 文化振興事業(市展・ふれあいギャラリー・文芸祭・市民芸術賞・文化功労賞・富松新能・尼崎薪能・演劇祭・新人お笑い大賞・歌舞伎公演) 3 郷土画家「白髪一雄」作品発信事業 没後10年展など作品を広く一般に公開するとともに、市内の小学校等を対象にアウトリーチ事業の実施 4 ちかまつ等関係事業(近松ナウ・近松祭) 「近松ナウ」、「近松祭」を実施し、「近松のまち・あまがさき」のPR 5 施設整備 利用者等の安全を確保するとともに、事故の未然防止、事業の円滑な実施、耐震化・老朽化等への対応のための施設・設備更新工事等

②事業成果の点検

目標指標	尼崎市総合文化センター入場者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)							単位	人	
目標・実績	目標値	450,000	達成年度	令和4年度	28年度	387,000	29年度	378,000	30年度	364,000
事業成果 (達成状況等)	<p>・総合文化センターにおいて、音楽・パレエ・演劇・古典芸能などのホール事業、白髪一雄氏の没後10年展をはじめとする美術展事業、市展や文芸祭等の文化振興事業など幅広い事業を実施し、市民に文化芸術に触れる機会を提供した。</p> <p>・総合文化センターの入場者数が減少しているなか、本市の文化振興を推進していくため、財団の機能強化や効果的・効率的な運営、また施設の耐震化・老朽化への対応等について引き続き市と財団とで協議・検討を進めていく必要がある。</p>									

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	310,818	292,395	287,988	
負担金補助及び交付金	310,244	291,926	287,519	
委託料	574	469	469	
				令和元年度より「尼崎市文化振興財団補助金等」に名称変更
人件費 B	10,102	4,598	5,874	
職員人工数	1.27	0.58	0.75	
職員人件費	10,102	4,598	5,874	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	320,920	296,993	293,862	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他		5,219		市町村振興協会市町交付金
一般財源	320,920	291,774	293,862	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	文化団体育成補助金	1F1D	施策	14 魅力創造・発信	
根拠法令	—				
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度	昭和40年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	63 文化振興費				
展開方向	14-3 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。				
行政の取組	14-3 新たな魅力づくりによる文化振興				
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名	松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	尼崎市文化団体協議会に対し、補助金を交付し、多彩で創造的な文化活動の促進を図る。
事業概要	尼崎市文化団体協議会に対し、補助金を交付する。
実施内容	市内で活動している文化団体18団体間の連携と協調を図るとともに、地域文化の向上を図るため、尼崎市文化団体協議会に対し、補助金を交付する。

②事業成果の点検

目標指標	尼崎市文化団体協議会への加盟団体数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)							単位	団体	
目標・実績	目標値	25	達成年度	毎年度	28年度	19	29年度	18	30年度	18
事業成果 (達成状況等)	<p>・会員の高齢化や新規加入者の減少により解散、退会する団体が続き、目標は達成できていないが、文化活動を行っているそれぞれの組織が、文化団体協議会への加盟を通じて、連携や協調を図り、多種多様な文化事業を行っている。</p> <p>・また、平成30年度については、文化団体協議会の事業として、会員の有志により尼崎八景PR事業の検討を進め、尼崎八景の絵画制作を依頼し、絵画の制作が行われた。</p>									

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	71	71	71	
負担金補助及び交付金	71	71	71	
人件費 B	171	254	254	
職員人工数		0.01	0.01	
職員人件費		79	78	
嘱託等人件費	171	175	176	
合計 C(A+B)	242	325	325	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	242	325	325	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	史料館紀要発行事業費	161K	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	尼崎市立地域研究史料館の設置及び管理に関する条例			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和46年度	展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	40 地域研究史料館費			
局	総務局	課	地域研究史料館	所属長名 辻川 敦

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	地域の歴史・文化に対する理解を助け、市民等との協働による地域資源の保存・活用に資するため、身近な地域の歴史に関する市民や研究者の調査・研究成果を記録し、公表・活用していく。尼崎地域の歴史に関する紀要を編集・刊行し、市民・研究者等に研究発表の場を提供することにより、市民の地域の歴史・文化に対する理解を助け、市民等との協働により地域資源の保存・活用に資する。
事業概要	尼崎及び歴史的関連地域に関する歴史論文、回想、聞き取り、史料紹介などを掲載した史料館紀要『地域史研究』を編集・刊行する。
実施内容	<p>[事業推移]</p> <p>昭和46年度 史料館紀要『地域史研究』創刊 平成30年度第118号刊行</p> <p>[刊行物の概要]</p> <p>A5判 本文平均200ページ 600部刊行</p> <p>尼崎及び歴史的関連地域に関する歴史論文、回想、聞き取り、史料紹介などを掲載 刊行した紀要は学校・図書館等市内公共施設、近隣をはじめ各地の図書館・文書館・大学等 専門機関に配布または刊行物交換するほか、希望者には有償頒布を行う</p> <p>[平成30年度実績]</p> <p>歳出決算額 463,446円 歳入決算額235,409円 紀要年間販売冊数168冊(過去刊行の在庫販売を含む)</p>

②事業成果の点検

目標指標	紀要販売件数と、史料館相談利用において紀要を活用した件数の合計 (適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)							単位	件	
目標・実績	目標値	320	達成年度	毎年度	28年度	241	29年度	198	30年度	209
事業成果 (達成状況等)	紀要販売数は、平成28年度134冊、29年度127冊に対して、30年度168冊と増加したが、史料館内での相談利用の活用数が減少した。相談対応を工夫するなど利用促進に向けて努めていく必要がある。									

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	414	463	453	
報償費	160	148	160	史料館紀要原稿料
需用費	177	199	215	史料館紀要印刷製本費
使用料及び賃借料	77	116	78	組版ソフト類賃借料
人件費 B	5,264	5,194	5,239	
職員人工数	0.40	0.39	0.40	
職員人件費	3,182	3,092	3,133	
嘱託等人件費	2,082	2,102	2,106	
合計 C(A+B)	5,678	5,657	5,692	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他	396	235	169	史料館紀要等頒布実費弁償金
一般財源	5,282	5,422	5,523	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	史料等整備事業費	162A	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	公文書館法、尼崎市立地域研究史料館の設置及び管理に関する条例			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和50年度	展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	40 地域研究史料館費			
局	総務局	課	地域研究史料館	所属長名 辻川 敦

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	公文書館法の定めるところにより、市の歴史的公文書や古文書等歴史資料を市民共有の地域資源として収集・保存・公開し、市民の利用に供していく。これにより、市民の地域への理解・関心・愛着を高め、協働による地域づくり、市民社会の実現に資する。
事業概要	尼崎市の歴史的公文書、地域の古文書等歴史資料を収集・整理・保存する。史料を尼崎市の貴重な地域資源として後世に伝えるとともに、市民・研究者等に公開し、活用を図る。
実施内容	<p><平成30年度末現在、史料所蔵点数></p> <p>歴史的公文書16,581冊 古文書・近現代文書類 2,494件153,107点 図書・逐次刊行物96,399冊 他に地図、写真、複製史料等 史料所蔵点数総合計約36万点</p> <p><平成30年度の整理・公開作業></p> <p>例年廃棄の歴史的公文書選別・収集及び、件名目録データ整備 Web上における古文書類他史料目録データ公開の拡充 古文書類・写真等の史料について、市民ボランティアによる整理作業実施 ボランティア作業実績 487回 のべ618人 (平成29年度実績:539回 のべ680人)</p> <p><平成30年度歳出決算></p> <p>500,661円</p>

②事業成果の点検

目標指標	年間相談利用人数 (適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)							単位	人	
目標・実績	目標値	2,345	達成年度	令和4年度	28年度	2,495	29年度	2,345	30年度	2,330
事業成果 (達成状況等)	<p>・Webでの情報発信のほか、まちづくりや協働事業に取り組む市内団体等との連携を深め、企画に協力するなど利用促進に努めた結果、目標指標である年間相談利用件数は目標値である平成29年度実績に近い水準を維持することができた。</p> <p>・平成30年度中の新規受け入れ史料点数は8,300点であり、このうち3,000点を年度中に整理・公開した。令和2年度の歴史館機能の整備に合わせて史料の整理・見直しを継続し、またデジタル・アーカイブ化に向けた調査検討・準備作業を進めた。</p> <p>・地域研究史料館におけるボランティア活動では、作業メニュー・受入日等を整理しウェブサイトを見直したことで、多様な作業体験機会を作り成果を得ることができた。関連機関の協議会や研究誌、SNS等を通じて成果の発信に努めた。</p>									

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	792	501	637	
需用費	156	371	396	史料購入
備品購入費	596		150	史料等購入
委託料	40	130	91	所蔵写真デジタル化
人件費 B	21,851	20,448	21,800	
職員人工数	1.00	0.88	1.06	
職員人件費	7,954	6,976	8,302	
嘱託等人件費	13,897	13,472	13,498	
合計 C(A+B)	22,643	20,949	22,437	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	22,643	20,949	22,437	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	城内まちづくり推進事業費	162S	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	尼崎市立地域研究史料館の設置及び管理に関する条例			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成30年度	展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	40 地域研究史料館費			
局	総務局	課	地域研究史料館	所属長名 辻川 敦

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	荻原一青画の尼崎城手ぬぐい・同原画・同型紙及び尼崎城本丸図について、整備・保存措置を行い、尼崎城において展示することで市民の地域への理解・関心・愛着をはぐくむ。
事業概要	尼崎城の内部展示において、メインコンテンツのひとつとして予定している荻原一青画の尼崎城手ぬぐい・原画等について、展示準備のため整備・保存措置を行う。
実施内容	〔保存修復対象資料〕 尼崎城手ぬぐい 3点、尼崎城手ぬぐい原画 2点、尼崎城手ぬぐい型紙2点、尼崎城本丸図1点 計8点 〔処置内容〕 脱酸処理、水洗い、フラットニング、ドライクリーニング、マット装、額装仕立て等 保存修復処置費用 464,400円

②事業成果の点検

目標指標 (今後の建物のあり方について検討中の段階であり、適切な成果指標及び活動指標の設定は困難)	単位	点
目標・実績	目標値 8	達成年度 30年度 8
事業成果 (達成状況等)	・必要な資料の保存修復措置を実施し、尼崎城の内部展示に活用した。	

③事業費

(単位:千円)

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	0	464	0	
委託料		464		
人件費 B	0	476	0	
職員人工数		0.06		
職員人件費		476		
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	0	940	0	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源		940		

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	地域資源活用型まちづくり推進事業費	1921	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	-			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成13年度	展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	60 企画費			
局	経済環境局	課	経済活性課	所属長名 西川 欣伸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	城内地区の歴史建築物等を広く市内外に発信することができる機会を設ける。歴史文化ゾーンを構成する城内地区に残された歴史・文化資源を活かすことで都市の魅力向上と交流人口の増加をめざすとともに、歴史文化という新たな都市のイメージを付加することで、シビックプライドの醸成につなげていく。
事業概要	旧尼崎警察署の維持管理や活用を行う。
実施内容	1 旧尼崎警察署の維持管理 旧尼崎警察署の維持管理を行うとともに、PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物の処分を実施した。 2 旧尼崎警察署の活用 地域資源の有効活用の観点から、城内地区の歴史的建築物等を広く市内外に発信する手法等について検討を行った。

②事業成果の点検

目標指標 (今後の建物のあり方について検討中の段階であり、適切な成果指標及び活動指標の設定は困難)	単位	—
目標・実績	目標値 —	達成年度 30年度 —
事業成果 (達成状況等)	・平成19年度に策定された「城内地区まちづくり基本指針」を踏まえ、歴史的に価値のある建築物を、令和2年度までの阪神尼崎駅周辺地区整備事業の事業効果を見極めながら、保存・活用する方向を基本に引き続き検討していく。 ・今後、市場性・コスト・立地・歴史的価値・具体的な活用の方法なども含め、建物のあり方について検討を進めていく。	

③事業費

(単位:千円)

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	1,256	9,055	0	
需用費	17	37		
役務費	37	37		
委託料	230	8,981		PCB廃棄物の処分委託
工事請負費	972			屋上防水工事
人件費 B	6,204	1,189	0	令和元年度より「観光地域づくり推進事業費」に統合
職員人工数	0.78	0.15		
職員人件費	6,204	1,189		
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	7,460	10,244	0	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	7,460	10,244	0	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	文化財保護啓発事業費	BZ31	施策	14 魅力創造・発信	
根拠法令	文化財保護法、尼崎市文化財保護条例				
事業分類	法定事業(裁量含む)	事業開始年度	昭和39年度		
会計	01 一般会計				
款	50 教育費				
項	35 社会教育費				
目	05 社会教育総務費				
展開方向	14-4 まちの歴史とともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。				
行政の取組	14-4 歴史遺産等の保存と活用				
局	教育委員会事務局	課	歴博・文化財担当	所属長名	梶野 一裕

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	長い歴史を有する本市に多数現存している史跡・文化財を市民共有の財産として保護・活用していく。埋蔵文化財については、埋蔵文化財包蔵地内での開発事業に際し、事業者や庁内関係課との連絡・調整を密にして、保護・活用を図る。
事業概要	遺跡の発掘調査を実施するとともに、遺跡から出土した土器等を学習教材として活用した出張授業や、出土資料の整理作業を学芸員と協働で行うボランティアの養成等を行うことにより、文化財の保護・啓発に努める。
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 文化財の保護 <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会 出土遺物保存処理事業 市内遺跡発掘調査事業 遺跡調査システム導入事業 国指定文化財管理事業補助金 文化財の啓発 <ul style="list-style-type: none"> 田能遺跡顕彰事業 ドキ・土器ふれあい講座事業 文化財保存活用サポートボランティア養成事業

②事業成果の点検

目標指標	指定文化財の毀損・滅失・解除数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	件										
目標・実績	<table border="1"> <tr> <th>目標値</th> <th>0</th> <th>達成年度</th> <th>毎年度</th> <th>28年度</th> <th>0</th> <th>29年度</th> <th>0</th> <th>30年度</th> <th>0</th> </tr> </table>	目標値	0	達成年度	毎年度	28年度	0	29年度	0	30年度	0		
目標値	0	達成年度	毎年度	28年度	0	29年度	0	30年度	0				
事業成果 (達成状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度において国・県・市指定文化財とも毀損・滅失・解除はなかった。 ・台風21号により被害が生じた県指定文化財については補助事業として所有者が修理を実施し、国指定文化財については31年度にかけて補助事業として所有者が修理を行った。 ・新たに市指定文化財を3件指定した。 ・埋蔵文化財については、法令に基づき適切に対応した。 ・文化財保護法改正等により文化財行政が複雑化・多様化してきており、その対応が課題となっているため、文化財保護体制を充実していく必要がある。 												

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	4,551	6,485	4,636	
需用費	532	592	593	発掘用品等
委託料	2,467	2,460	2,458	市内遺跡発掘調査作業委託等
使用料及び賃借料	1,328	1,329	1,329	遺跡調査システムリース料
負担金補助及び交付金	184	1,117	210	国指定文化財管理事業補助金等
その他	40	987	46	ボランティア保険料等
人件費 B	37,084	35,162	38,196	
職員人工数	3.45	3.58	3.95	
職員人件費	27,441	26,366	28,849	
嘱託等人件費	9,643	8,796	9,347	
合計 C(A+B)	41,635	41,647	42,832	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金	3,600	3,750	3,750	埋蔵文化財緊急発掘調査事業費補助金(補助率1/2)
市債				
その他	17	6	22	市政資料等頒布収入
一般財源	38,018	37,889	39,060	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	文化財収蔵庫企画展事業費	BZ35	施策	14 魅力創造・発信	
根拠法令	尼崎市立文化財施設の設置及び管理に関する条例				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成26年度		
会計	01 一般会計				
款	50 教育費				
項	35 社会教育費				
目	05 社会教育総務費				
展開方向	14-4 まちの歴史とともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。				
行政の取組	14-4 歴史遺産等の保存と活用				
局	教育委員会事務局	課	歴博・文化財担当	所属長名	梶野 一裕

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	歴博・文化財担当が所蔵する資料を広く公開し、市民が尼崎の歴史や文化財に関心を持ち、尼崎の観光やシティプロモーションに資する。
事業概要	文化財収蔵庫企画展示室等を会場に、歴博・文化財担当が所蔵する資料を活用した企画展を開催する。
実施内容	<p><平成30年度実績></p> <ol style="list-style-type: none"> 第19回企画展「保存科学でよみがえった考古資料」(会期:平成30年3月17日～5月20日) <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数 3,212人(平成30年度分) ・関連事業・・・展示解説17人(平成30年度分) ・会場 文化財収蔵庫企画展示室 第20回企画展「これって家にあったよね」(会期:平成30年7月21日～8月26日) <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数 2,064人 ・関連事業・・・クイズ320人、上映会51人 ・会場 文化財収蔵庫企画展示室 出張企画展「尼崎史を彩る人びと」(会期:平成31年2月21日～3月3日) <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数 643人 ・関連事業・・・展示解説94人、講座66人 ・会場 尼崎市総合文化センター 4階美術ホール

②事業成果の点検

目標指標	1日あたりの入館者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	人										
目標・実績	<table border="1"> <tr> <th>目標値</th> <th>56</th> <th>達成年度</th> <th>令和元年度</th> <th>28年度</th> <th>61</th> <th>29年度</th> <th>55</th> <th>30年度</th> <th>69</th> </tr> </table>	目標値	56	達成年度	令和元年度	28年度	61	29年度	55	30年度	69		
目標値	56	達成年度	令和元年度	28年度	61	29年度	55	30年度	69				
事業成果 (達成状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は目標値を上回る入館者数を記録し、成果は達成できたとする。 ・文化財収蔵庫は工事のため30年度下半期から休館となり、休館中は総合文化センター美術ホールで出張企画展を開催し、歴博・文化財担当が所蔵する資料を広く公開することができた。 ・本事業は、令和2年度開館予定の新博物館に引き継ぎ、より充実した企画展へと発展させていくことが課題である。 												

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	731	894	875	
需用費	731	352	183	ポスター印刷等
委託料		300	329	展示資料運搬列品委託
使用料及び賃借料		242	363	展示会場使用料
人件費 B	2,003	2,378	1,801	
職員人工数	0.23	0.30	0.23	
職員人件費	1,829	2,378	1,801	
嘱託等人件費	174			
合計 C(A+B)	2,734	3,272	2,676	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	2,734	3,272	2,676	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	歴史資料保存公開事業費	BZ3N	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	尼崎市歴史博物館資料取得基金条例		展開方向	14-4 まちの歴史とともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成13年度	行政の取組	14-4 歴史遺産等の保存と活用
会計	01 一般会計			
款	50 教育費			
項	35 社会教育費			
目	05 社会教育総務費			
局	教育委員会事務局	課 歴博・文化財担当	所属長名	楞野 一裕

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	歴史資料等の収集・保管を行うことにより地域資産の保存・活用を図る。また、市民との協働による体験学習活動を実施することにより、市民が尼崎の歴史に関心を持ち、地域の歴史に根差した文化活動の促進に寄与する。
事業概要	収集・保管している歴史資料を地域資産として保存し、展示会で公開するとともに、市民との協働による体験学習活動等を実施する。
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 歴史資料保存等関係事業 <ul style="list-style-type: none"> ・尼崎の歴史にゆかりのある歴史資料等を寄贈・寄託等により収集し、美術品倉庫等に保管する。 平成31年3月末現在の資料収蔵状況…1,594件、27,168点 歴史資料公開活用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵する歴史資料等を市内の展示施設(尼信会館)で開催する展示会で公開する。 平成30年度実績 尼崎城絵図の世界(10.6~11.11、尼信会館) わくわく体験ミュージアム事業 <ul style="list-style-type: none"> ・市民が郷土の歴史に関心を持ち、地域に根ざした文化活動の促進に寄与するため、地域の歴史に関わる各種体験学習活動等の教育普及事業を市民との協働で実施している。

②事業成果の点検

目標指標	収蔵資料数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)							単位	点		
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	28年度	27,152	29年度	27,161	30年度	27,168
事業成果 (達成状況等)	・市民からの寄贈等による資料収集を行ってきたため収蔵資料は増加している。 ・本事業は、令和2年度閉館予定の新博物館に引き継ぎ、より充実した事業へと発展させていくことが課題である。										

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	5,331	5,360	5,424	
需用費	190	213	200	ポスター印刷等
役員費	4,897	4,903	4,957	資料保管料等
委託料	242	242	267	展示資料運搬列品委託
使用料及び賃借料	2	2		会場使用料
人件費 B	8,244	7,511	8,501	
職員人工数	1.00	0.90	1.06	
職員人件費	7,954	7,134	8,302	
嘱託等人件費	290	377	199	
合計 C(A+B)	13,575	12,871	13,925	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	13,575	12,871	13,925	

令和元年度事務事業シート(平成30年度決算)

事務事業名	田能遺跡サポーター養成事業費	C21P	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—		展開方向	14-4 まちの歴史とともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成28年度	行政の取組	14-4 歴史遺産等の保存と活用
会計	01 一般会計			
款	50 教育費			
項	35 社会教育費			
目	20 資料館費			
局	教育委員会事務局	課 歴博・文化財担当	所属長名	楞野 一裕

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	市民共有の文化財である田能遺跡を後世に伝えていく活動の担い手として、田能遺跡サポーターを養成し、協働の取組を推進する。
事業概要	田能遺跡サポーターを養成し協働の取組を推進するため、研修や事業のサポートを行う。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・養成・研修活動 土器整理、体験学習会事前研修等 ・田能資料館と連携した各種事業の実施 小学校団体見学の指導補助 古代のくらし体験学習会事業の支援・協力 特別展開連事業の支援・協力

②事業成果の点検

目標指標	参加人数(延べ)(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)							単位	人		
目標・実績	目標値	5,400	達成年度	令和元年度	28年度	532	29年度	195	30年度	125	
事業成果 (達成状況等)	・復元住居の茅葺屋根の葺き替え作業が前年度で終了し、田能遺跡サポーターの活動機会が減少したため、結果的に参加人数は減少したが、田能資料館で実施する体験学習会では田能遺跡サポーターの支援・協力により円滑に事業を実施することができた。 ・田能遺跡を末永く後世へと伝えていくためには市民ボランティアとの連携・協力は不可欠であり、引き続き、養成を継続し、協働の取組を推進していく。										

③事業費

	29年度決算	30年度決算	(参考)令和元年度予算	備考
事業費 A	485	450	200	
委託料	485	450	200	養成事業委託
人件費 B	1,142	2,363	1,873	
職員人工数	0.10	0.11	0.16	
職員人件費	795	872	1,253	
嘱託等人件費	347	1,491	620	
合計 C(A+B)	1,627	2,813	2,073	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	1,627	2,813	2,073	